

DSO参加機関 公開イベントのご案内

■ 国際農林水産業研究センター ■

国際農業研究におけるダイバーシティ実現イニシアティブ

【日時】平成29年2月16日(木)10:00~16:50(受付開始 9:30)

【題名】

プログラム1 女性研究者のワークライフバランスとキャリアアップ

プログラム2 地域食料のバリューチェーンと消費者ニーズ研究報告

【講師】

プログラム1 アメリカ合衆国及びタイ国の女性研究管理者2名

プログラム2 プログラム1の講師、および中国、タイ及びラオスの女性研究者計6名

【場所】オークラフロンティアホテル アネックス 1階 昇

茨城県つくば市吾妻1丁目1364-1

【申込方法】2月14日(火)17時まで 要事前登録。参加費無料。使用言語：英語(同時通訳)

https://pursue.dc.affrc.go.jp/form/fm/jircas/diversity_ws

【開催機関】国立研究開発法人国際農林水産業研究センター

【関連情報】

https://www.jircas.go.jp/ja/symposium/2016/diversity_ws

【問合先】国立研究開発法人国際農林水産業研究センター企画連携部情報広報室
029-838-6708

【対象】DSO参加機関以外も対象

Program 1 Workshop on "Work-life Balancing" and "Career" issues for women researchers

Introduction of the project (Dr. Masayoshi Saito)

Lessons for women's successful careers and personal balance (Prof. Jean Kinsey)

My view on "Women in Research Institute" from experience in Thailand and observation in Japan (Ms. Patcharee Tungtrakul)

Discussion with Japanese women researchers

Conclusions (Prof. Toshie Awaya)

Program 2 Workshop on "Value chain of local food and consumers' needs"

Keynotes

Expanded attributes in the food value chain: New con-

sumer expectations and new producer responsibilities (Prof. Jean Kinsey)

Effort in Thailand for food value chain establishment and international collaboration (Ms. Patcharee Tungtrakul)

Producer analysis of buckwheat farmers (Prof. Zhao Minjuan,)

An analysis on consumer behavior of rice in metropolises in China (Dr. Zhoulin)

Value chain of packed rice in Thailand (Dr. Prapinwadee Sirisupluxana)

Development of the agricultural value chain in Laos: From the policy aspect (Dr. Phonevilay Sinavong)

Conclusions (Dr. Yukiyo Yamamoto)

Reception(18:00-20:00)



国際農林水産業研究センター
Open International Center for Agricultural Science
国際農業研究におけるダイバーシティ実現イニシアティブ
プログラム1 女性研究者のワークライフバランスとキャリアアップ
プログラム2 地域食料のバリューチェーンと消費者ニーズ研究報告

プログラム1は、アメリカ、タイの研究管理責任者を含む国際的、女性研究者のワークライフバランスとキャリアアップについて話し合い、実践、異文化間、異文化間について話し、女性研究者の成功を報告する。

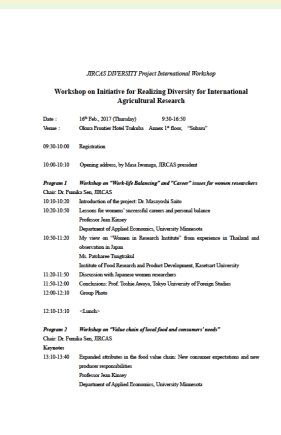
プログラム2では、最近国際農業研究センターのワークショップと社会科学研究所に開かれた共同研究による価値連鎖の報告と、この報告の報告者の価値連鎖と見ます。ダイバーシティ推進、同時通訳、同時通訳者による同時通訳者による同時通訳者として、開かれた共同研究で報告できる機会を創出したいと思っています。書いてください。

日時 2017年 2月16日(木)10:00~16:50(受付開始 9:30)

会場 オークラフロンティアホテル アネックス1階 昇 茨城県つくば市吾妻1丁目1364-1

参加費 無料
事前登録 要 (JIRCAS ホームページ)
使用言語 英語(同時通訳)
プログラム 別紙参照

問合せ先
国立研究開発法人国際農林水産業研究センター企画連携部情報広報室
TEL: http://www.pursue.dc.affrc.go.jp/affrc/department/0298386708_ws



JIRCAS DIVERSITY Project International Workshop
Workshop on Initiative for Realizing Diversity for International Agricultural Research

Date: 16th Feb, 2017 (Thursday) 9:30-16:50
Venue: Ochiai House Hotel Takahashi Annex 1st floor, "Sakura"

09:30-10:00 Registration

10:00-10:10 Opening address, by Min Terajima, JIRCAS president

Program 1 Workshop on "Work-life Balancing" and "Career" issues for women researchers
Chair: Dr. Pamela Lee, JIRCAS
10:10-10:20 Introduction of the project, Dr. Masayoshi Saito
10:20-10:30 Lessons for women's successful careers and personal balance, Professor Jean Kinsey
Department of Applied Economics, University of Minnesota
10:30-10:35 My view on "Women in Research Institute" from experience in Thailand and observation in Japan, Ms. Patcharee Tungtrakul
10:35-10:40 Discussion with Japanese women researchers
11:00-11:05 Conclusions, Prof. Toshie Awaya, Tokyo University of Foreign Studies
12:00-12:10 Group Photo

12:10-12:15 Lunch

Program 2 Workshop on "Value chain of local food and consumers' needs"
Chair: Dr. Pamela Lee, JIRCAS
Keynote:
13:10-13:45 Expanded attributes in the food value chain: New consumer expectations and new producer responsibilities, Professor Jean Kinsey
Department of Applied Economics, University of Minnesota

DSO参加機関 公開イベントのご案内

■ 神戸大学・関西学院大学・兵庫県立大学 ■

女性研究者研究活動支援事業（連携型）総括シンポジウム

【日時】平成29年2月15日(水)14:20~17:10

【主催】神戸大学、関西学院大学、兵庫県立大学

【講師】

唐沢 裕之氏（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課）予定

麓 幸子氏（日経BP社執行役員，日経ウーマン元編集長）

山村 康子氏（国立研究開発法人科学技術振興機構 プログラム主管）

【内容】

挨拶 武田 廣（神戸大学長）

来賓挨拶 唐沢 裕之氏

講演 麓 幸子氏 演目「女性が活躍する組織の強さ（仮）」

休憩

女性研究者研究活動支援事業（連携型）成果報告 内田 一徳（神戸大学理事）

連携型共同研究P I の報告

講評 山村 康子氏

情報交換会

【場所】神戸大学百年記念館 六甲ホール(神戸市灘区六甲台1-1)

阪急電車 六甲駅、JR 六甲道駅 又は、阪神電車 御影駅より市バス36系統「鶴甲団地」行乗車「神大文・理・農学部前」下車

新幹線 新神戸駅からタクシーで約15分

詳細は下記URLをご覧ください。

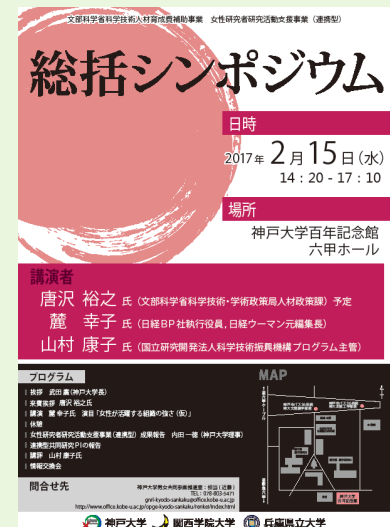
<http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/renkei/news/2017215.html>

【問い合わせ先】

神戸大学男女共同参画推進室：担当(近藤)

TEL : 078-803-5471

gnrl-kyodo-sankaku@office.kobe-u.ac.jp



イベント開催報告

■産総研 キャリア形成支援講演会■

未来に向けて、今、自分は何をする？

～ 一企業技術者の「夢」づくりストーリー ～

【日時】平成29年1月17日(火)13:30～14:30

【会場】国立研究開発法人 産業技術総合研究所 つくばセンター 共用講堂

【主催】国立研究開発法人 産業技術総合研究所 総務本部 ダイバーシティ推進室



女性職員のキャリア形成をエンカレッジするために、山田 由佳 氏（パナソニック（株）先端研究本部から産総研に転籍出向中）の講演会を開催し、企業のリーダーとして「ウーマン・オブ・ザ・イヤー 2014 リーダー部門」を受賞されたご経験について伺いました。本講演会は、今年度のDSO懇話会と連動しての開催で、DSO参画の各機関からも多数のご参加をいただきました（つくばセンター83名、TV会議配信による産総研の各地域センター22名の参加）。

「未来に向けて、今、何をする？」をテーマに、1.想像力を磨こう、2.大きなビジョンを持とう、3.仲間を集い道を作ろう、の3点について、山田氏自身のご体験等を具体的に示してのお話は、大変、示唆に富み、講演の質疑応答では、リーダーシップの取り方など多くの質問が寄せられました。さらに講演後に設けた山田氏と参加者の方々との懇談の場でも、熱のこもった意見交換が行われました。参加者アンケートに示された、講演に対する満足度は高く、「プロジェクトの提案から、進捗の見せ



方まで、山田さんの取り組み方を具体的に説明して頂けて良かった」、「多数決で決まるようなテーマはやらない。新しいことをやるなら、皆が二の足を踏んでいる時がチャンスで、1～2割が賛成しているならやってみる、というお話が、大変興味深く納得できた。」、「研究に対しても、生き方に対しても、モチベーションが上がった。」など、共感のコメントが多く寄せられました。

産総研では、キャリア形成支援の一環として、このような取り組みを継続して参りますので、今後ぜひご参加をお願いいたします。



DSO事務局の活動報告

平成28年度第2回懇話会 & 交流会

2017年1月17日に産業技術総合研究所（つくば市）のつくば本部共用講堂にて、平成28年度第2回DSO懇話会が開催されました。本会には、森林総研（幹事機関）、産総研、物質材料機構、農研機構、筑波大、高工ネ研、JAXAの7機関の担当者が参加し、各機関におけるダイバーシティ推進の現状について活発な情報交換を行いました。

DSO会長の桂川森林総研理事により、女性や多様な人材が自然に活躍する社会がメインストリームになる、そんな近い将来のメインストリームを作るつもりで取り組んでいきたい、との挨拶があったあと懇話会が始まりました。懇話会は二つのテーマについて、参加各機関が紹介する形で進行了しました。

前半は「外国人職員支援の取組状況」とし、各機関の外国人の受け入れ・支援体制についての取り組みについて情報交換を行いました。とりわけ外国人研究者の多い物質材料機構（全研究員の約28%が外国人）では、「パーマネントの研究員の国際公募（応募から面接まで全て英語）」「公用語を英語としている研究部署」「生活支援する専門の部署と専属スタッフの配置」など、積極的に海外からの研究者を支援している取り組みをご紹介いただきました。正直、日本に不慣れな外国人を受け入れるのは、本人も受け入れ側にも負担が増えることと思われがちですが、多国籍な人材による組織の活性化、成果の向上、などあまりあるメリットがあることが強調されました。

後半は「出張時の子供一時預かり」をテーマに、まず



は所内に保育施設を設置している森林総研や産総研や筑波大から、保育施設の紹介や現状、問題点などをご紹介いただきました。産総研は8時から20時までの、筑波大では22時までの利用が可能とのこと、これは公立の保育所よりも長いです。例えば東京までの日帰りの出張の時、お迎えに間に合わない、という悩みにも対応してまます。また、保育施設が職場になくても、民間の託児所やベビーシッターと委託して、保育を提供している機関も多くありました。高工ネ研では病中病後児も24時間対応できる民間業者と委託していることで、突発的な状況にも職員が安心して勤務できる取り組みを進めておりました。

盛況のうちに懇話会は終了し、その後の交流会にもほとんどの方が引き続き参加し、さらに活発な情報交換が行われました。

（森林総合研究所 植物生態研究領域 樹木生理研究室
ダイバーシティ推進室併任
矢崎 健一 記）



イベント参加報告

つくば男・女(みんな)のつどい2016 ～ひとりひとりの個性が輝く～多様なひとのまち、つくば～

【日時】平成28年12月3日(土)

【場所】つくばカピオ (つくば市竹園1-10-1)

【主催】つくば市

「つくば男・女(みんな)のつどい」は、つくば市の主催で毎年開催されており、今年は「ひとりひとりの個性が輝く～多様なひとのまち、つくば～」というテーマで行われました。著名人による講演会をメインに、男女共同参画推進標語「愛ことば」の表彰式や男女共同参画推進団体の活動紹介を行う一般の方向けのイベントで、小さい子ども連れでも参加しやすいように、専用席や保育等の対応も充実しています。また、ステージ上での発表や講演には、手話通訳が付いていました。森林総研ダイバーシティ推進室は、つくば6研究・教育機関(筑波大、産総研、物材機構、森林総研、農研機構、理化学研)の一員として、活動状況紹介とポスター展示を行いました。

今回の講演は、作家/社会学者の古市憲寿氏による「私たちの現代流幸福学」でした。テレビ等でも活躍中の古市さんは、参加者から事前に寄せられた質問への回答を交えながら、既往研究の紹介や自著の内容にも触れつつ、幸福度や少子高齢化の問題について、終始リラックスした雰囲気でお話されました。

お金と幸福度の関係は、ある一定のレベルまでは比例するけれど、すごくお金持ちでも友達が少ない人もいる。とか、配偶者の死亡という状況は幸福度をかなり下げられるけれど、2年後にはほぼ回復する。そして結婚によ

る幸福度の上昇も2年くらいで元どおりになるらしい。とか、適度な運動をしている人の幸福度が高いというデータがあるけれど、毎日の運動が義務化されたりしたら、運動がきらいな人にとっては地獄ですよ。とか、昭和の日本は良かったと言うけれど、今の方が殺人件数はずっと少なく安全だし、生活も便利。などなど、ちょっとシニカルな視点からのお話に、会場からはしばしば笑いが起きていました。

日本の少子高齢化の問題の切実さについても、著書の「保育園義務教育化」の内容等、いろんなエピソードを交えてお話してくださいました。留学していたノルウェー等の雰囲気為例に、もっと“うっかり”子供を産んでも大丈夫な社会になると良いのでは、との言葉は印象的でした。思い通りに行かなかったり、挫折したりすることがあっても、別の選択肢を自由に選べるような社会になることで、みんなの幸福度が上がるのかもしれない。

これからは、みんなが100歳まで生きるつもりで人生を考えなくてはならない時代とのこと。幸福の形は人それぞれで、特に世代間の違いは大きいようです。講演を聴いていたいろんな年齢層の方たちが、どんな感想を持ったのか気になりました。

(森林総合研究所 木材加工・特性研究領域
木材機械加工研究室 ダイバーシティ推進室 併任
松村 ゆかり 記)



イベント参加報告

農業における女性・若者の活躍推進に向けたG7フォーラム

【日時】平成28年12月12日(月)

【場所】三田共用会議所(東京都港区三田2-1-8)

【主催】農林水産省

「G7新潟農業大臣会合」で採択された、世界の食料安全保障の強化に向けた具体的な取組の一つとして各国の情報共有があります。その場として設けられたのがこのフォーラムで、第一部と第二部に分けて開催されました。

第一部は、G7各国の農業関係の女性・若者の活躍推進に向けた施策や制度に関する報告会でした。農林水産省の大澤誠経営局長による趣旨説明の後、経済開発協力機構



(OECD) 経済局シニアエコノミストのランダル・ジョーンズ氏が、停滞する世界経済に男女共同参画の取組は様々な良い影響を与え、それによって世界経済

が活性化するということなどの話がありました。見せられるスライドの数々の男女共同参画の指標の数値で、日本の低さが感じられました。次に、国際連合食糧農業機関 (FAO) のアジア・太平洋地域事務所地域ジェンダー担当官のクララ・パーク氏が、FAOの最重要課題の1つが発展途上国の貧困・飢餓対策であり、それら地域の農業には女性が貢献しているため、女性と若者の影響力を高めることで地域農業の生産性を高め、貧困や飢餓の撲滅に向かわせることであること、またそのための取組について紹介、最後に発展途上国の女性と若者の地位向上には、我々一人一人がしなければならぬことがあるという話で締めくくられました。

その後、G7メンバー各国とEUの女性・若者政策担当者による現状と取組についての説明がありました。各国の状況は、若干違う部分もありましたが、共通の大きな課題として、「高齢化」「労働人口の不足」「若者の失業と雇用のミスマッチと就農」であり、特に農業分野の労働者に占める女性割合については、実際の農業経営の意思決定に関与している女性はあまりいない、しかし、各地の農業において女性がいなくなると立ちいかなくなるという現状認識がされました。農林水産省の佐藤一絵就農・女性課長から、日本における補助金を伴わない「農業女子プロジェクト」についての説明があり、農業のイメージアップと見える化は重要で、見えていなかった課題を農業関係者だけでなく国民にも伝えることができる、また、企業とのコラボレーションによる新商品の開発等の効果が現れている、という話がありました。イメージアップと見える化については、G7各国も賛同していました。また、アグロツーリズムの導入による農業の高次元化は女性の参画を促すが、そのためのインフラ整備によってさらに女性も就農しやすくなるという結論になりました。

第一部と第二部の間には、農業女子プロジェクトで開発された農業機器や下着、新規の若手就農者の取組とネットワークの紹介の展示による説明がありました。こういった取組は日本特有の創造力と気遣い精神によるものでしょう。

第二部は齋藤健農林水産副大臣の挨拶で始まり、世界的にも女性活躍している企業体の方が利益を上げている状況



と、農業女子プロジェクトの成果の紹介がありました。続いて安倍昭恵内閣総理大臣夫人が挨拶され、ご自身の米作りの農業体験と経営するレストランでのこだわった食材の紹介、女性目線でのきめ細かな視点、バリューチェーンでの女性と若者の活躍の有効性についてお話しされました。

その後、佐藤一絵就農・女性課長が司会、昭恵夫人がコメンテーターでパネルディスカッションが行われました。パネリストは、神奈川県の小規模野菜農家で農業女子プロジェクトメンバーの高橋久美子氏、熊本県の養豚業者セブンフーズ株式会社代表取締役の前田佳良子氏、フランスの羊農家カレン・セレス氏、米国オハイオ州で酪農と穀物生産を行うローズ・ハーチャー氏での4人で、会場からの質問も含め、以下のような質疑や議論が行われました。

司会者（佐藤氏） 農業は重労働で男性向きだと思われるが、そんな中で女性はどのように活躍されているのか？

セレス氏 「フランスの制度によって農地の半分は自分所有で夫婦とも経営者となっている、経理は女性が行い、投資についても自分が最終決定している、義理の母は農業に従事していたが、そういう権限はなかった、日本の女性の状況はそうした義母の役割に近いのではないか」

ハーチャー氏 「いろいろな役割があり、意思決定について助言的な役割をもって持っていて、コミュニケーション能力が高い女性は、男性と補完的に社会的、教育的な仕事をしている」

前田氏 「会社の女性比率は10%でかつてはやめる女性が多かったので、女性が長く働くためにワークライフバランスを導入、スキルアップ計画は男性と異なるものを用意した、研修や女性のクウォーター性も大事」

高橋氏 「最初は新規就農者の女性であるということによるデメリットが多かったが、女性だからできないと思われて配慮され、かえってメリットになったこともあった、今はメリットとデメリット半々ぐらい、日本では人々の意識の深いところに役割分担が平等ではなく、女性が劣っているという意識が残っている」

昭恵夫人 「女性が家事、子育てをしながら農業に従事されているが、やらされている感がある、子供達にやってもらいたいと思わせるような農業にして欲しい、両親の

背中を見て子供は農業に進むような魅力的な農業になればいい」

セレス氏 「末っ子は農業を継ぎたいと言っている、農家には独身男性が多く、お嫁さんがいない、農業女子のイメージアップをすればよいのではないか」

司会者 「かつては農家の嫁不足が問題だったが、婿捜しをしている農家も増えている現状がある」

ハーチャー氏 「様々な体験を小さいうちにすることで、農業が楽しいと認識させることは大事である」

高橋氏 「ロールモデルとして農業を見せることが大事で、そうすると農業を通してPDCAサイクルを回せるようになる」

司会者 「農業や農業政策の意志決定の場に女性が少ない現状についてどう考えるか」

セレス氏 「農業は現場で行われているが、意志決定は東京やパリなどの都市で行われているので、組織があることの重要性は現場からの声を吸い上げること、組織の中に男女がいることの2点が大事である」

司会者 「日本の現状は、農業委員会の7%が女性で、現在は首長が任命している、委員として女性を多く採用して欲しいと要求している」

前田氏 「農業委員会に女性がいないと困る、女性の後継者が増えているので、女性の理事やリーダーの育成の活動をして欲しい」

司会者 「（昭恵夫人に）安倍政権で女性活躍推進法が制定されたが、ご自身の経験から、農業における女性活躍にアドバイスがあるか？」

昭恵夫人 「農業に積極的に取り組んでいる女性が増えてきている、それには、東日本大震災で食料の重要性が認識されたことが大きいと思う、食料を自分で作れる人が魅力的という価値観が広がり、一歩進んで農業をやっている男子も魅力的と感じる女性が増えれば良いと思う」

会場より 「食を取り扱っている若者の中には農業に興味を持つものもいるが、知識がないのでどうすれば良いか？」

ハーチャー氏 「食とのつながりがきっかけで、都市部で

家庭菜園などがはやり、農業と全く関係ない分野からの農業への参入が増えている」

セレス氏「フランスでは研修農場の制度があり、従事者には沢山の措置がある、直販型農業、宿付農家、エネルギー生産など、若者がやる気と創造力を持つことが大事」

会場より「人材確保が難しい中、外国人雇用の可能性はあるか？」

前田氏「私の会社では、人材確保には付随して人事評価を見直す必要があり、どのような人事評価によって社員の満足度を上げるかの勉強会をしている、すでにベトナム人4人を雇用しており、今後さらに増え、それぞれのニーズに合わせた制度の導入を検討している」

総合コメント

ハーチャー氏「問題に対峙し解決するための焦点を絞った議論が必要で、情報交換が大事である」

セレス氏「農業は食糧を供給しており、食糧供給は国に安定をもたらす」

前田氏「農業と女性のステータスが上がることを願う」

高橋氏「農業女子、新規就農者の代表としてここに来た、良いものを作って、良いコミュニケーションができ、そういうロールモデルとなれればうれしい」

シンポジウムの最後は、昭恵夫人による「農業は世界で重要な産業であると考え、人手不足に対してはマッチングも大事で、消費者にも認知してもらうこと、また、農業は環境にも貢献しているため、未来の地球を考えるためにも女性が手を取り合って世界作っていきましょう」というお話で締めくくられました。

(森林総合研究所ダイバーシティ推進室長
安部 久 記)

ニュースレターへ記事をご投稿ください！

「DSO News Letter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして原則毎月最終週に発行しております。掲載を希望する記事がありましたら、数行の記事でも結構ですのでぜひお寄せください。

ニュースレターには以下のような記事を掲載しています。

- ・今後開催されるシンポジウムやセミナー、講演会など、イベントのお知らせ
- ・最近行われたイベント報告、あるいは参加報告
- ・最近取組中のこと
- ・その他、お役立ちや関連情報

記事の宛先

dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp

ダイバーシティサポートオフィスのご案内

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）は、研究教育18機関をメンバーとして、平成19年より男女共同参画を連携して推進しています。参加機関相互のイベント等の機会提供、情報交換を行っています。当初は、科学技術振興調整費の支援を受けてスタートしましたが、現在はイコールパートナーシップでメンバーが対等に運営する、より開かれたDSOとして活動しています。

*DSOメンバー：産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、千葉大学、筑波大学、神戸大学、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、岡山大学、宇宙航空研究開発機構、大阪大学（加入順）